

プラネタリウム解説研修過程報告

西岡 里織*

概要

プラネタリウムの操作・解説を始めて1年を迎えるにあたり、投影デビューに至るまでの研修内容と、その後の研修、投影内容について報告する。

1. はじめに

筆者は、昨年 2016 年 4 月 1 日大阪市立科学館に採用後、プラネタリウムの投影研修を受け、現在は、一般投影のみであるが、プラネタリウムの投影を担当している。まだまだ日々勉強、そして、一般投影以外の投影にもこれから取り組むところであるが、プラネタリウムの操作・解説を始めて 1 年を迎えるにあたり、1 年間の投影研修や投影内容について報告する。

なお、科学館採用までは、天文を専門にしていたわけではなく、星を見るのは好きだが、専門的な知識や観測などの経験はほとんどないという状態であった。

4 月 1 日より研修が始まり、4 月 28 日に一般投影 B 「星の誕生」のプログラム(前半の星空解説と明け方の空のみ生解説)で投影デビューした。

2. 一般投影プログラム

2-1. 一般投影 A と B の違い

A では、前半は今夜の星空解説、後半はテーマ解説、最後は明け方の空を合計 45 分間の生解説で投影する。それに対し B では、前半は今夜の星空を生解説、後半は全天周デジタル映像作品の上映と、最後に明け方の空を生解説するという合計 45 分間の投影である(プログラムによっては、明け方の空解説を行わないものもある)。プログラムによって、星空解説の時間や、星空解説からテーマ解説やデジタル映像作品への話の展開が変わってくる。

2-2. プログラムと担当開始日

<2016 年 4 月 1 日(3 月 3 日)～5 月 29 日>

- A: 銀河の世界(担当せず)
B: 星の誕生(4 月 28 日担当開始)
<6 月 3 日～8 月 28 日>
A: 火星・土星・冥王星ツアー(6 月 28 日担当開始)
B: 星空へのパスポート(6 月 4 日担当開始)
<8 月 30 日～11 月 27 日>
A: 星空オールナイト(9 月 25 日担当開始)
※明け方まで 45 分間オールナイトの星空解説
B: 「銀河鉄道の夜」ショート版(8 月 31 日担当開始)
<12 月 2 日～2017 年 2 月 26 日>
A: オリオン座の秘密～星の誕生秘話～
(2017 年 1 月 5 日担当開始)
B: ボイジャー太陽系脱出!(12 月 6 日担当開始)
<3 月 2 日～3 月 31 日(5 月 28 日)>
A: 見えない宇宙のミステリー
～謎の光・X線をとらえろ～(3 月 22 日担当開始)
B: 見上げよう! 未来の星空
-10 万年後にタイムスリップ-(3 月 2 日担当開始)

3. 研修内容

3-1. デビューまで

採用当初は、開館中はプラネタリウムの投影中に解説者の横で投影の見学をさせてもらい、プラネタリウムの操作や解説内容について学んだ。そして、閉館後、プラネタリウムホールが使えるようになってから、機器の操作方法などについての研修を受けた。

解説の内容や話し方については、台本などではなく、解説担当者がそれぞれ考え、それぞれの個性を出して解説を行っている。そのため、色々な担当者の解説を参考にさせてもらい、自分の解説原稿を考えました。まずは、日没まで。夜景の空、真っ暗になってからの話の流れ、星座…など、毎日少しずつ原稿を作成した。

*大阪市立科学館 学芸員
s-nishioka@sci-museum.jp

そして、閉館後は、ほぼ毎日プラネタリウムホールで練習を見てもらい、作成した原稿についてのチェックやアドバイスをいただいたり、原稿に合わせたコンソールでの操作を覚えてもらった。そうして、後半の映像作品へのつなぎや明け方の空解説なども含めて、一通りの解説や操作手順などを覚えてできるようになったのが、4月26日頃となった。そして、最後の通しリハーサルを4月27日に一度行い、4月28日13時「星の誕生」が投影デビューとなった。この日は、13時と15時「星の誕生」の投影も担当した。

投影練習は、主に以下のようなことを行った。

- ①台本を作り、セリフを覚える
- ②操作を覚える
- ③イメージトレーニングとセリフの調整
- ④コンソールで実際に投影練習

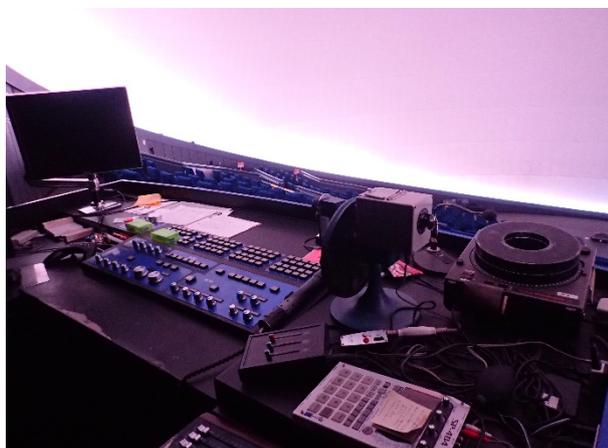


写真1. コンソール



写真2. デビュー投影の直前

3-2. デビュー後

色々な担当者の解説を聞かせてもらい、上記①～④のような基本的な練習は変わらず行っていたが、デビューまでのような、プラネタリウムホールで毎日練習や、原稿チェックをしてもらうことは少なくなった。ただ、今度は、声の出し方を意識するようになった。

最初はスタンドマイクを使っていたが、5月26日、自由度が高いヘッドセットマイクを使ってみた。すると、声がマイクに上手く拾われず、聞き取りにくくなってしまった。そのため、ヘッドセットマイクは使わず、まずは、声を出す練習を行うことにした。投影前など、一日に何度か、息を吐ききってから大きく吸い、また吐ききって大きく吸う…ということを行った。そして、投影でしゃべることを声に出して、口をしっかりと動かしてはつきりしゃべる練習を行った。そうして、意識的に声を出しているうちに、ヘッドセットマイクでも声が入るようになり、8月18日12時「火星・土星・冥王星ツアー」の投影より、ヘッドセットマイクを使っている。

また、5月中旬より、投影後に、その日の内容や気づいたことなどをメモするようになった。特に、6月中旬からはノートを作成し、星空解説の内容を変えた時や、お客様の反応が良かった時、アドバイスをいただいた時、また反省点や思いついたことなどを、最初の頃は、ほぼ毎日の投影についてメモしていた。

現在は、他の業務の都合で練習量やメモをとる回数は減っているが、基本的な練習や発声練習は同じ方法で行っており、何かあった時は投影後のメモも続けている。



写真3. ヘッドセットマイク

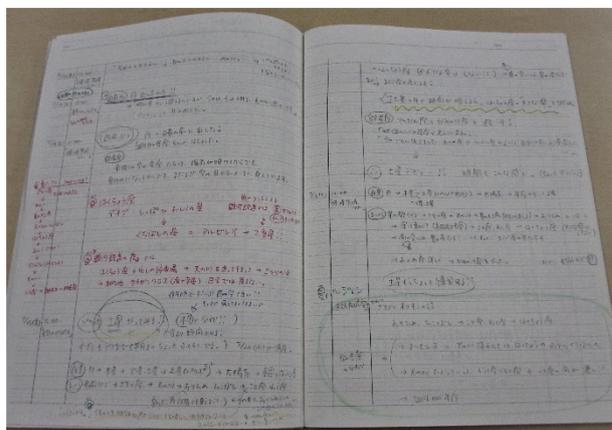


写真4. 投影メモノート

4. 主な投影内容(星空解説)

4-1. 当館の主な流れ

当館のプラネタリウムでは、夕方の空(16時または17時)から始め、日の入り後、20時または21時の空で星空解説を行う。このとき、大阪の夜景が出たまま、大阪の街中で見える星空解説を行い、その後、照明を消して真っ暗な空で見える満天の星空解説を行っている。(担当者によっては、夜景が出たままの星空は行わない場合もある。)また、後半のデジタル映像作品やテーマ解説後、明け方の空解説があるが、デジタル映像作品によっては、明け方の空解説は行わない場合もある。

一般投影AはBよりも星空解説の時間が5~10分程度長いことが多いので、星の数クイズや内容を抜き差しして調整する。

4-2. 2016年度に投影した主な内容

こちらからの一方的な解説にならないよう、お客様に星を探してもらったり、イメージしやすいように身近なものに結びつけたり、話し方を工夫するなど心掛けた。

<春(4月28日~6月上旬)>

- ・夜景の空:(月)→※(一番星)木星→太陽系→星の瞬き(惑星とそれ以外の星)
- ・真っ暗な空:星の数クイズ→(木星がある)しし座[星たどる]→おおぐま座(しっぽの話)→北斗七星(アルコル、ミザール)[星たどる]→春の大曲線(アークトゥールス、スピカ)[星たどる]→うしかい座、おとめ座→誕生日の星座→88星座

(※木星は、5月中旬よりパワーポイントを使用して拡大、地球との大きさ比べをした。)

<七夕前後>

- ・夜景の空:惑星(※木星[パワーポイントで拡大、地球と大きさ比べ]、火星、土星)、他
- ・真っ暗な空:星の数クイズ→(火星、土星近い)さそり座[星たどる]→天の川→夏の三角形[星たどる]→織姫星、彦星(→距離の話)→こと座、わし座→はくちょう座[星たどる]→東の空には夏の星、まだ春の星も見える→アークトゥールス、スピカ→うしかい座、おとめ座→誕生日の星座→88星座

(※7月中旬より、パワーポイントでは木星をやめて土星を紹介した。土星は、地球との大きさ比べはせず、大きな土星の写真と小型望遠鏡で見た土星の写真を紹介した。)

<夏(8月~9月頃)>

- ・夜景の空:惑星(木星、火星、土星)、他
- ・真っ暗な空:星の数クイズ→※(火星、土星近い)さそり座[星たどる](→オリオンとサソリの話)→天の川→夏の三角形[星たどる]→織姫星、彦星→こと座、わし

座→はくちょう座[星たどる]→アルビレオ[パワーポイントで拡大]→天の川→さそり座、いて座→誕生日の星座→88星座

(※さそり座が見えなくなった後は、夜景の空で夏の三角形を探してもらい、真っ暗な空では夏の三角形からはじめた。)

<秋(11月前後)>

- ・夜景の空:惑星(火星)、他
- ・真っ暗な空:星の数クイズ→3,4,5をキーワードに星を見つけてもらう→③夏の三角形[星たどる]→夏の星(こと座、わし座、はくちょう座[星たどる]、天の川、天の川銀河[マクロで映像])→(彦星、織姫から)やぎ座[星たどる]→誕生日の星座→④秋の四辺形[星たどる]→ペガサス座[星たどる]→フォーマルハウト→⑤カシオペア座[星たどる]→北極星→88星座(秋の星座物語)⇒その後、テーマ解説(「星空オールナイト」として、冬の星座や日周運動[パワーポイントで自転の説明]の話、星座早見盤の紹介をした。

<冬(1月前後)>

- ・夜景の空:惑星(金星、火星)、他→冬の三角形[星たどる]
- ・真っ暗な空:星の数クイズ→冬の三角形→オリオン座[星たどる]→おおいぬ座[星たどる]→こいぬ座[星たどる]→冬の三角形→オリオン座→アルデバラン、ヒアデス星団(Vサインの星の並び)[星たどる]→すばる[パワーポイントで拡大、星たどる]→おうし座[星たどる]→誕生日の星座→88星座

5. おわりに

プラネタリウムの操作・解説を始めて1年を迎えるが、星は毎日動いているということを強く実感した1年だった。解説していた星や星座が見えなくなり、新しい星、星座が昇ってくる。また、後半のプログラムも3か月ごとに変わるため、常に「新しい解説を考え、よりわかりやすいものになるよう工夫し、慣れる」ということに追われていたように思う。

今年は2年目になるので、どのような伝え方をすれば、よりわかりやすいか、お客様に、より興味を持っていただけるかを考え、楽しい気持ちを忘れずに、さらに新しい伝え方を工夫していきたいと思う。また、一般投影だけでなく、ファミリータイム、幼児投影、学習投影も担当できるようになることが、今年の課題である。

さらに、プラネタリウムAのテーマ解説部分の番組は、科学館で制作している。そのため、この制作ができるようになることも、今後の課題である。

